

文部科学省 大都市大震災軽減化特別プロジェクト - 3  
 「巨大地震・津波による太平洋沿岸巨大連担都市圏の総合的対応シミュレーションとその活用手法の開発」  
 (中核機関：京都大学防災研究所)  
 研究成果発表会

【特集】東海・東南海・南海地震に対する総合的な防災のあり方 3  
 - 迫り来る東海・東南海・南海地震と参加型減災社会の形成 - 21 世紀日本の挑戦 -

東海地震・東南海・南海地震は今世紀前半にも発生が確実視されており、もし 1707 年の宝永地震のように 3 つの地震が同時に発生すると、建物全壊が約 90 万棟、死者約 2.5 万人、経済被害は最大 81 兆円にのぼると中央防災会議は予想しています。地震発生までの残された時間の中で被害を最小限に留めるためには、総花的な対策では不十分であり、重要な課題に重点的に資源を配分する戦略的な発想が求められます。この講演会では、迫り来る東海・東南海・南海地震にそなえて、参加型減災社会の形成の必要性和、それを実現する災害リスクマネジメントの戦略として「社会共同先行体験学習」という挑戦課題を提唱し、大特の研究成果を還元する可能性を議論します。

日時：平成 18 年 7 月 27 日 (木) 10:00 ~ 平成 18 年 7 月 28 日 (金) 16:00  
 場所：大阪新阪急ホテル 2F 花の間 (大阪市北区芝田 1-1-35 TEL:06-6372-5101)  
<http://www.hankyu-hotel.com/hotels/19osakashh/>

プログラム

7月27日 於：花の間

9:45	受付、開場
10:00	開会挨拶 ・河田恵昭 (大大特 -3 代表者、京都大学防災研究所・教授) ・渡邊 淳 (文部科学省研究開発局地震・防災研究課・防災科学技術推進室長)
<b>【研究成果発表(コア組織)】</b>	
10:10	研究課題 1：巨大地震の強震動シミュレーションとその活用手法の開発 澤田純男 (京都大学防災研究所・教授)
10:35	研究課題 2：大規模ライフライン網の地震災害評価シミュレーション手法と耐震性向上技術の開発 井合 進 (京都大学防災研究所・教授)
11:00	研究課題 3：巨大地震津波による広域被害想定と防災戦略の開発 河田恵昭 (京都大学防災研究所・教授)
11:25	研究課題 5：新公共経営(New Public Management)の枠組みにもとづく地震災害対応シミュレーターによる災害対応力の向上 林 春男 (京都大学防災研究所・教授)
11:50	昼食休憩
12:45	受付、開場
<b>【特集】東海・東南海・南海地震に対する総合的な防災のあり方 3 - 迫り来る東海・東南海・南海地震と参加型減災社会の形成 - 21 世紀日本の挑戦 -</b>	
13:00	趣旨説明：なぜ今、参加型減災社会の形成が求められるのか？「社会共同先行体験学習」としての大大特プロジェクトの挑戦 岡田憲夫 (京都大学防災研究所・教授、研究課題 4「統合地震シミュレータに基づく災害対応戦略に関する参加型意思決定方法に関する研究」代表者)
13:30	1. 創造的・想像的政策シミュレーター (Policy Ima - simulator) づくりとしてみた大大特プロジェクト 多々納裕一 (京都大学防災研究所・教授)
14:10	2. 住まい環境シミュレーター (Living Environment Ima - simulator) づくりとしてみた大大特プロジェクト 鈴木祥之 (京都大学防災研究所・教授)
14:50	休憩
15:00	3. 防災行政に携わる者からみた参加型減災社会への課題と政策・環境シミュレーターへの期待と注文 西川 智 (内閣府・災害予防・広報・国際防災推進担当参事官)(予定)
15:30	4. NPO の立場から見た参加型減災社会への課題と政策・環境シミュレーターへの期待と注文 栗田暢之(NPO 法人レスキューストックヤード・代表)

16:00	パネルディスカッション「参加型アプローチによる「社会共同先行体験学習」はどこまで可能か」 - 法制度・態勢づくりからみた迫り来る東南海・南海地震と減災体制の現状と課題 - 低頻度・巨大影響災害への備えと参加型アプローチによる「社会共同先行体験学習」の可能性(まちづくりとの融合、情報開示、メディアの役割 etc.) - 官民学・NPO・市民の連携の可能性と課題(共助・公助・自助、自主防災の活用 etc.) - 方法論としてみた政策・住環境シミュレーターの可能性と課題(安全への投資効果の計量化と政策の優先順位化、コミュニケーションの場作りの装置としての役割 et コーディネーター：岡田憲夫 (京都大学防災研究所・教授) パネリスト：西川 智 (内閣府・災害予防・広報・国際防災推進担当参事官)(予定) 国土交通省 (予定) 栗田暢之(NPO 法人レスキューストックヤード・代表) 鈴木祥之 (京都大学防災研究所・教授) 多々納裕一 (京都大学防災研究所・教授)
17:30	初日終了

7月28日 於：花の間

9:00	開場
<b>【関連する災害対応戦略研究】</b>	
9:10	ライフラインの広域復旧戦略シミュレーターの開発 永田 茂 (鹿島建設(株)技術研究所・上席研究員)
9:30	防災用人的シミュレーションシステムの研究開発 臨海部広域連携法 久保雅義 (神戸大学海事科学部・教授)
9:50	津波の影響を受ける臨海部の避難シミュレーション 片田敏孝 (群馬大学工学部・教授)
10:10	スーパー広域震災時の大都市間連携情報の高度化 越山健治 (人と防災未来センター・専任研究員)
10:30	巨大地震・津波による被害シミュレーション・プラットフォームの開発 金子史夫 (OYO インターナショナル株式会社・チーフエンジニア)
10:50	災害対策本部要員の応急対応訓練用ゲームの制作 梶 秀樹 (慶應義塾大学総合政策学部・教授)
11:10	防災担当者の能力向上を目的とした図上訓練シミュレーターの開発 坂本朗一 (株式会社防災・情報研究所・主幹研究員)
11:30	巨大連担都市圏での災害対応シミュレーション・プラットフォームの開発 - ライフライン企業の災害対応業務分析に基づく災害対応シミュレーターの開発 - 今井健二 (西日本電信電話株式会社ソリューション営業本部・担当部長)
11:50	地域社会の防災力の向上を目指した自治体の防災プログラムの開発と普及 永松伸吾 (人と防災未来センター・専任研究員)
12:10 ~ 12:30	総括：河田恵昭 (大大特 -3 代表者、京都大学防災研究所・教授)

7月28日 於：花の間 -Hands-on Session-

13:00 ~ 16:00	り災証明書発行 - 被災地となる前に知っておきたいこと - 1. 被災者生活再建支援策の一連の流れとり災証明 - り災証明書に基づき実施される業務の一連の流れを知る - : 重川希志依 (富士常葉大学大学院環境防災研究科・教授) 2. 建物被害認定調査のための事前トレーニング - 公正かつ迅速な調査を実施するために必要なトレーニングを体験する - : 堀江 啓 (人と防災未来センター・専任研究員) 3. 災害対応業務のコツ・ポイントの紹介 - 建物被害認定調査・り災証明書発行業務に従事する前に知っておきたいノウハウ - : 田中 聡 (富士常葉大学環境防災学部・助教授) 4. り災証明書発行業務の基本 - 業務を円滑におこなうための工夫 - : 牧 紀男 (京都大学防災研究所・助教授)
---------------	---

\* 発表者等変更になることがあります。

参加費：無料

定員：当日先着順 200 名

アブストラクト：<http://www.ddt33.dpri.kyoto-u.ac.jp/> に掲載予定

問合せ先：京都大学防災研究所巨大災害研究センター 大大特 -3 幹事長 林 春男

TEL: 0774-38-4273 Fax: 0774-31-8294